Shiga Museum of Art
PRESS RELEASE　2024.7.8（7.9 更新）

Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

※出展者の遠藤秀平様の作品名および家成俊勝＋赤代武志｜ドットアーキテクツ様のお名前の表記に誤りがございました。遠藤様、ドットアーキテクツ様、関係者の皆様に心からお詫び申し上げますとともに、正誤をお知らせいたします。

誤）《S／／B（SPRINGTECTURE びわ）》
正）《SPRINGTECTURE B》
誤）家成俊勝＋赤代武志｜ドットアーキテクツ
正）ドットアーキテクツ

提供年月日：令和６年（2024 年）７月８日
所属名：滋賀県立美術館
担当者名：小松（広報担当）、三宅敦大（学芸担当）
連絡先：077-543-2113
E-mail：museum@pref.shiga.lg.jp

滋賀県立美術館開館 40 周年記念

滋賀の家展

2024 年７月 13 日（土）～９月 23 日（月・振休）

池田隆志＋池田貴子｜design it《和邇のコート・ハウス》2020 年　撮影：平井広行

【見どころ】

- ✻ 16 組の建築家による、魅力的な「滋賀の家」（県内に竣工した、あるいは計画中の家）をご紹介します。
- ✻ 建築家・伊礼智（いれい・さとし）が本展のために設計したパビリオン《湖畔の方丈》を美術館の前庭に設置。開館時間中は中にお入りいただけます。
- ✻ 建築家・竹原義二（たけはら・よしじ）｜無有建築工房が、滋賀の民家にインスピレーションを受けつつ本展のために設計した縁側的空間《素の縁側》を、美術館のファサード近辺に設置。まったりとくつろいでいただけます。
- ✻ 写真や模型だけでなく、モックアップ（原寸大の部分模型）や建材のサンプルも展示します。
- ✻ 本展のために撮影した建築家や施主のインタビュー映像も公開します。
- ✻ かなりマニアックな、人によっては懐かしい、滋賀県と住宅産業とのつながりを教えてくれるパンフレット等、資料類も多数展示します。
- ✻ 子どもから大人まで、いつでも楽しめるワークショップコーナーもご用意しています。

１．本展について

「滋賀県」という視点で「家」を考えてみると、面白いことがいくつもあがってきます。たとえば 1961 年以降、日本を代表するいくつものハウスメーカーが県内にプレハブ工場を設置しています。また、惜しくも 2022 年に解体された、黒川紀章設計の《中銀カプセルタワービル》（1972/現存せず）の「カプセル」は、米原市内の工場で制作されたものでした。その意味では（部分的にであれ）Made in Shiga の建築だったとも言えます。そして、滋賀県は面積の半分を森林が、６分の１を琵琶湖が占めるという特徴的な地形ゆえ、多様な暮らしのかたちを見ることができる場所なのです。

本展は、1960 年代の日本の住宅産業と滋賀県の強いつながりを示す事例から、現代建築家による最近のプロジェクトまでを、幅広く紹介する展覧会です。パンフレット、模型、図面、写真といった、建築展ならではの資料だけでなく、家具や、建築家や施主のインタビュー映像なども展示します。

また、美術館の前庭やファサード近辺には、実際に入ることのできる小屋やくつろげる縁側も設置します。

建築に専門的な関心を持つ人だけでなく、滋賀での暮らしについて関心を持つ人にとっても、興味深いものになるはずです。本展が、「滋賀の家」と、私たちの未来の生活や環境を考えるきっかけになれば幸いです。

２．開催概要

展覧会名（正式）：滋賀県立美術館 開館 40 周年記念「滋賀の家展」
展覧会名（略記）：「滋賀の家展」
展覧会名（英語正式）：Shiga Museum of Art 40th Anniversary
「House of Shiga: Life and Connection with the Environment」
展覧会名（英語略記）：「House of Shiga」
会　　期：2024 年７月 13 日（土）～９月 23 日（月・振休）
休 館 日：毎週月曜日（ただし祝休日の場合には開館し、翌日火曜日休館）
開場時間：9:30～17:00（入場は 16:30 まで）
会　　場：滋賀県立美術館　展示室３など
観 覧 料：一般 1,200 円（1,000 円）
高校生・大学生 800 円（600 円）
小学生・中学生 600 円（450 円）
※お支払いは現金のみ
※（　）内は 20 名以上の団体料金
※企画展のチケットで展示室１・２で同時開催している常設展も無料で観覧可
※未就学児は無料
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料
※８月１日（木）～８月 31 日（土）は大学生以下の観覧料無料
主　　催：滋賀県立美術館、京都新聞
特別協力：株式会社 木の家専門店 谷口工務店、BBC びわ湖放送
協　　力：成安造形大学芸術学部 地域実践領域
成安造形大学 附属近江学研究所
後　　援：エフエム京都
助　　成：公益財団法人朝日新聞文化財団
企　　画：三宅敦大（滋賀県立美術館学芸員）

３．小さなお子さんがいる、障害があるなど、様々な理由で来館を迷っている方へ

当館では、しーんと静かにする必要はなく、おしゃべりしながら過ごしていただけます。目が見えない、見えづらいなどの理由でサポートをご希望される場合や、そのほかご来館にあたっての不安をあらかじめお伝えいただいた際には、事前の情報提供や当日のサポートのご希望に、可能な範囲で対応します。

４．展覧会の構成

１：はじめに

「滋賀の家」が立地する滋賀県とは、どのような特徴を持つ土地なのでしょうか。それを知るために、まず成安造形大学（大津市）の地域実践領域および附属近江学研究所が中心となって作成している「MUSUBU 地図」を見ていただきたいと思います。そこにはたとえば、農地の分布、水系の在り方、交通網などを確認することができます。こうした情報をふまえることで、滋賀県での暮らしや住居のあり方について、より深く考えられるようになるでしょう。

他にもここでは、第二次琵琶湖岸埋め立て計画（1966-68）でできた「におの浜埋立地」で開催されたびわこ大博覧会(1968)や、名神高速道路の脇にできたハイウェイサイドタウン（1966）に代表されるようなニュータウンの開発、そして湖西の宅地開発を後押しした湖西線の開通(1974)など、1960 年代以降に滋賀県内で起こった様々な出来事について、当時のパンフレットや映像などを通して見ていただくことができます。

１－１：滋賀について
１－２：家とくらしの転換期

２：　住宅産業と滋賀

大和ハウス工業株式会社のミゼットハウス（1959）を出発点に、1960 年代から 80 年代にかけての日本では、プレハブ住宅の開発などを通して住宅産業が活性化していきます。かつて県内に積水ハウス株式会社や、ナショナル住宅建材株式会社、旭化成ホームズ株式会社など多くの工場が設置された滋賀県は、住宅産業の縁の下の力持ちでもありました。本章では滋賀県に工場を置いていたこれらの住宅メーカーにまつわる資料を中心に、国内で発展していったプレハブ住宅の歴史と、そこから発展したユニットハウスや、カプセルハウスなどについて紹介します。当時の住宅がどのようなものであったか、時代の流れの中でどのように展開していったのか、ぜひ一緒に考えてみましょう。

２－１：プレハブ生産工場としての滋賀
２－２：プレハブ住宅の高度工業化とカプセル住宅

沖種郎・利昌工業株式会社《フローラ》1972 年
画像提供：利昌工業株式会社

黒川紀章
《中銀カプセルタワービル》1972 年/現存せず
撮影：大橋富夫

３：建築家たちの実践　―新しい暮らしと周縁とのつながり

本章では、1960 年代から 80 年代の住宅産業の活性化を受け、1990 年代の建築家たちが―つまりバブル経済の崩壊に見舞われた建築家たちが―どのように反応し、どのような住宅建築の提案をしてきたのかについて、14 組の建築家による滋賀県内の事例紹介を通じて確認します。そこには、現在進行形で進んでいるプロジェクトも含まれています。これらのプロジェクトの特徴は、地域の文化や、暮らし方など、住環境に関するリサーチをもとに住居が考えられている点です。こうした地域と共存しようとする住居のあり方は、人間の営みと環境とのつながりを考えるという、今日、世界に共通する課題を検討する上で、大切な視点をもたらしてくれるはずです。

３－１：新しい暮らし

- 木村佐近・木村真理子《安土のいえ》1987 年
- 椎名英三《世界最小の村》1994 年
- 出江寛《三四郎の家》1995 年
- 遠藤秀平《SPRINGTECTURE B》2002 年
- 飯田善彦《半居》2009 年
- 島田陽｜タトアーキテクツ《比叡平の住居》2010 年など
- 竹口健太郎＋山本麻子｜アルファヴィル《Skyhole》2014 年
- 畑友洋《大津の家》2016 年
- 牧祐子｜Studio Yuko Maki《大津の住宅》2017 年
- 池田隆志＋池田貴子｜design it《和邇のコート・ハウス》2020 年

畑友洋《大津の家》2016 年
撮影：矢野紀行

竹口健太郎＋山本麻子｜アルファヴィル
《Skyhole》2014 年
撮影：笹倉洋平

牧祐子｜Studio Yuko Maki
《大津の住宅》2017 年
撮影：山内紀人

３－２：周縁とのつながり

- 芦澤竜一《三津屋プロジェクト》2021 年-進行中
- 川井操・美和絵里奈《足軽屋敷プロジェクト》2019 年-進行中
- ドットアーキテクツ・京都芸術大学ウルトラプロジェクト・滋賀県立大学陶器浩一研究室・NPO 法人日野まちつなぐ研究所《日野町プロジェクト》2022 年-進行中
- 木村吉成＋松本尚子｜木村松本《house M / factory T》2023 年

川井操・美和絵里奈
《足軽屋敷プロジェクト》2019 年-進行中
撮影：金川晋吾

木村吉成＋松本尚子｜木村松本
《house M / factory T》2023 年
画像提供：木村松本建築設計事務所

４：リビングルームとしての美術館を考える

1984 年に滋賀県立近代美術館が開館した時、当館は「あなたの応接間に」をモットーの一つとして掲げていました。その後、2021 年に滋賀県立美術館としてリニューアルをした際には、目指すべき美術館の姿を「リビングルームのような美術館」と改めました。このように当館は、そのあるべき姿に住宅空間の一部を重ねてきました。今回、開館 40 周年となる記念の年に、美術館を住宅と見立てた２つのプロジェクト、すなわち伊礼智による小屋《湖畔の方丈》（2024）と竹原義二｜無有建築工房による縁側《素の縁側》（2024）を、株式会社 木の家専門店 谷口工務店の特別協力のもと、美術館の前庭とファサード近辺にて展開します。そして、これに合わせて展示室内でも２名の建築家の滋賀における住宅建築の実践を合わせて紹介します。是非屋外のプロジェクトとともにお楽しみください。

伊礼智
《におの浜の家》2022 年
画像提供：株式会社 木の家専門店 谷口工務店

竹原義二｜無有建築工房
《鶴の里の家》2016 年
撮影：絹巻豊

ドロップインワークショップ

本展では、展覧会の最後に鑑賞者が自由に家を描くことができる、いつでも楽しめるワークショップコーナーを設けます。展覧会を通して、多様な住宅や滋賀での暮らしについて感じたことをかたちにすることができます。

５．図録

本展に出展される 1960 年代以降の住宅産業の歴史にまつわる資料や論考、建築家たちによる住宅についての写真や図面等の情報を掲載します。また、建築家たちや、施主のインタビューを掲載し、住宅建築について多角的に理解を深めることのできる内容になっています。

現在、刊行に向けた編集作業中で、８月下旬の発行を予定しています。

６．関連イベント

◆学芸員によるギャラリーツアー[事前申込不要／当日先着／要観覧料]

本展を担当学芸員の解説付きで鑑賞します。

日程：７月 21 日（日）、７月 27 日（土）、８月 11 日（日）、８月 12 日（月・振休）、
　　８月 25 日（日）、９月 14 日（土）、９月 15 日（日）

時間：14：00～15：00
　　※８月 25 日（日）のみ別の時間帯に実施予定。詳細は HP にてお知らせします。

定員：各回 20 名程度

◆スペシャルトーク[事前申込不要／当日先着／無料]

本展で紹介している建築家を招いてのトークイベントを開催予定です。

※全４回を実施予定。（随時 HP にて詳細を公開予定）

※当日、開館（９時 30 分）と同時に総合受付にて参加希望者に整理券を配布します。

＜第１回＞

日　　時：７月 13 日（土）13：30～14：30

登 壇 者：伊礼智（建築家）
　　竹原義二（建築家）
　　谷口弘和（株式会社 木の家専門店 谷口工務店 代表取締役）
　　保坂健二朗(当館ディレクター)

定　　員：80 名

特別協力：株式会社 木の家専門店 谷口工務店

＜第２回＞

日　　時：8 月 17 日（土）13：30～15：00

登 壇 者：遠藤秀平（建築家）ほか

定　　員：80 名

◆たいけんびじゅつかん[要事前申込／抽選／参加費 200 円（保護者の方のみ要観覧料）]

小中学生とその保護者の方を対象とした、展覧会の鑑賞と創作体験がセットになったワークショップを開催します。

日時：８月 25 日（日）10：00～12：00、13：30～15：30
　　９月 22 日（日）13：30～15：30

定員：各回 10 名

７．滋賀県立美術館開館 40 周年記念イベント
「40th Birthday 美術館で夏祭り！ ～朝から晩まで県美にどぼん！～」

当館は 1984 年８月 26 日に開館し、今年で開館 40 周年を迎えます。これを記念し、より多くの人に美術館に親しんでいただけるよう、本展会期中の８月 25 日（日）に、開館 40 周年の記念イベントを開催します。

一日を通して、アートやモノづくりの楽しさを五感で体験できるワークショップを実施するほか、ライブステージやキッチンカーの出店なども予定しています。当日は閉館時間（通常は 17 時）を延長し、20 時まで開館します。

８．内覧会

（１）開催日：2024 年７月 12 日（金）

（２）会　場：滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町 1740－1）

（３）タイムスケジュール【予定】

①プレス限定の内覧会

13：00～13：30　受付

13：30～14：10　本展担当学芸員 三宅敦大による展覧会場のご案内

14：10～14：50　説明会（木のホール）

・当館ディレクター 保坂健二朗のご挨拶

・本展担当学芸員 三宅敦大による展覧会内容のご紹介

・出展者のご紹介

・質疑応答

※13：00～13：30 は、展覧会場を自由にご取材いただくことができます。

②招待者や関係者による内覧会

15：00～15：20　オープニングセレモニー

・当館ディレクター　保坂健二朗のご挨拶

・滋賀県文化スポーツ部文化芸術振興課長　笹山衣理のご挨拶

・特別協力のご紹介

・出展者のご紹介

15：20～17：00　内覧会（招待者らが展覧会場を自由にご観覧）

※自由にご取材いただくことができます。ただし、オープニングセレモニー終了までは、展覧会場に入場いただくことができませんので、あらかじめご容赦ください。

（４）参加申込み

参加を希望される方は、別添「内覧会参加返信表」に必要事項をご記入の上、2024 年７月 12 日（木）までに、メールまたは FAX にてお知らせください。お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場（無料）をご利用ください。（機材の持ち込みなどの都合上、美術館前までお車の乗り入れが必要な場合は、別途ご相談願います。）

（５）注意事項

天災地変等の突発的な事情により、内覧会の内容を変更させていただく場合や開催を中止する場合があります。なお、開催中止の場合は、参加申込みの際にいただいたご連絡先にお知らせします。

９．同時期に開催する当館の展覧会（常設展）

◆常設展「日本画って何だろう？」
会期：2024 年７月６日（土）～９月 23 日（月・振休）
会場：展示室１（小倉遊亀コーナーを含む）

◆常設展「“みかた”のちょっと多い常設展」
会期：2024 年７月６日（土）～９月 23 日（月・振休）
会場：展示室２

10. 次回開催予定の展覧会（企画展）

展覧会名：滋賀県立美術館開館 40 周年記念
「生誕 100 年記念　人間国宝 志村ふくみ展　色と言葉のつむぎおり」
会　　期：2024 年 10 月８日（火）～11 月 17 日（日）
概　　要：滋賀県近江八幡市出身の染織家であり、重要無形文化財「紬織」の保持者でもある志村ふくみは、2024 年に生誕 100 年を迎えました。国内屈指の志村ふくみコレクションを所蔵する当館では、この記念の年に作品だけでなく作家の言葉にも注目し、源氏物語や琵琶湖をテーマにした作品群も特集しつつ、その歩みを振り返ります。

志村ふくみ《鈴虫》1959 年
滋賀県立美術館蔵

11. 滋賀県立美術館の概要

- 1984 年８月 26 日に滋賀県立近代美術館として開館しました。
- 日本画家の小倉遊亀（滋賀県大津市出身）や染織家の志村ふくみ（滋賀県近江八幡市出身）のコレクションは国内随一を誇っています。
- 2023 年度末時点の収蔵件数は 2,589 件です（日本画・郷土 1,291 件、現代美術 567 件、アール・ブリュット 731 件）。

滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）

滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

プレス限定内覧会参加返信表

申込期限:7/11（木）

滋賀県立美術館 行き

Fax　：077-543-2170
Email： komatsu-akira@pref.shiga.lg.jp

＜必要事項＞

１）貴社名：

２）ご芳名：
※参加される方すべてのご芳名を記入してください。

３）参加人数：

４）ＴＥＬ：

５）E-mail：

６）通信欄：

広報用画像等申込書

滋賀県立美術館 行き

Fax：077-543-2170

E-mail：komatsu-akira@pref.shiga.lg.jp

展覧会広報用素材として、作品画像を用意しています。ご希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、FAX またはメールにてお申し込みください。なお、読者プレゼント用の招待券の提供をご希望の場合は、本申込書の記載欄に併せてご記入ください。

****

媒　体　名：

種　　別：テレビ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　その他

発売・放送予定日：

貴　社　名：

ご担当者名：

E－mail：

TEL：

招待券希望枚数：　　枚（送付先住所：　　）

ご希望の画像に☑をつけてください。

□	① 池田隆志＋池田貴子｜design it《和邇のコート・ハウス》2020 年　撮影：平井広行
□	② 沖種郎・利昌工業株式会社《フローラ》1972 年　画像提供：利昌工業株式会社
□	③ 黒川紀章《中銀カプセルタワービル》1972 年/現存せず　撮影：大橋富夫
□	④ 畑友洋《大津の家》2016 年　撮影：矢野紀行
□	⑤ 牧祐子｜Studio Yuko Maki《大津の住宅》2017 年　撮影：山内紀人
□	⑥ 竹口健太郎＋山本麻子｜アルファヴィル《Skyhole》2014 年　撮影：笹倉洋平
□	⑦ 川井操・美和絵里奈《足軽屋敷プロジェクト》2019 年-進行中　撮影：金川晋吾
□	⑧ 木村吉成＋松本尚子｜木村松本《house M / factory T》2023 年　画像提供：木村松本建築設計事務所
□	⑨ 伊礼智《におの浜の家》2022 年　画像提供：株式会社 木の家専門店 谷口工務店
	⑩ 竹原義二｜無有建築工房《鶴の里の家》2016 年　撮影：絹巻豊
□	⑪ 滋賀県立美術館外観（撮影：大竹央祐）
□	⑫ 滋賀県立美術館エントランスロビー（撮影：大竹央祐）

****

［使用条件］

※広報用画像をご使用の際は、各画像のクレジットを明記してください。

※広報用画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねるなどはご遠慮ください。

※展覧会基本情報と広報用画像の使用方法の確認のため、お手数ですが、校正原稿を当館へお送りくださいますようお願いします。
（記事内容や報道原稿を確認する意図ではございませんので、念のため申し添えます。）

※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。

※広報用画像は本展の広報・報道のみのご利用となります。ご利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いします。